

子育てグループの育児情報に関する研究

(分担研究：母子保健における情報の整理と育児への応用)

巷野悟郎¹⁾ 吉田弘道¹⁾ 太田百合子¹⁾ 植松紀子¹⁾
長谷川正美¹⁾ 中澤恵子²⁾

【要約】母親達が孤立して子どもを育てる育児環境の中で、「子育て仲間のグループ」は母親相互の援助機能を果たし、育児情報の発信・受信の場ともなっていると考えられる。しかしその一方で、「子育て仲間のグループ」からの育児情報で不安が起こる場合もある。今年度は昨年度の都内および埼玉・千葉・神奈川県と静岡県焼津市の母親を対象とした調査をより深めて分析し、「子育て仲間のグループ」から得た育児情報によりどのような不安が生じているのか、また母親はその不安をどのようにして解決しているのかについて検討した。その結果、母親は子どもの年齢の違いにより不安や悩みの内容が異なり、また不安に対しては内容に応じていくつかの不安解決の方法を使いわけながら対処していることが明らかになった。

見出語：子育て仲間、育児情報、不安材料、解決方法

【1】研究目的

子育て中の母親たちは育児情報をどのように受け止めているのだろうか。前年度の報告では①「一番気がかりなこと」に関する情報の入手先は、近所の友人48.2%、実家の母32.4%、友人35.9%、実家の母23.0%、病院21.6%であること、②その中で「一番気がかりなこと」の相談先としては、近所の友人50.2%、実家の母46.7%、病院の医師や看護婦29.2%、保健所の保健婦や看護婦29.0%の順であることを述べた。③「一番気がかりなこと」の相談先として、近所の友人50.2%、実家の母46.7%、病院の医師や看護婦29.2%、保健所の保健婦や看護婦29.0%の順であることを述べた。そこで今年度は、「子育てグループ」から得

こどもの城小児保健部¹⁾ 鶴見大学女子短期大学部²⁾

た育児情報で不安に思った109(14.7%)例の内容について整理するとともに、この不安にどのように対処したのかについても整理した。

【Ⅱ】研究方法および対象

対象：0～3歳児を持つ母親

地域：東京都、埼玉・千葉・神奈川の各県
静岡県焼津市

方法：健診時や集会時にアンケート用紙を配布し任意郵送回収した。

期間：1993.10月～11月

有効票：740(回収率25.9%)

アンケートのうち「子育て仲間からの育児情報」の項目について分析した。

(平成5年度の報告と同じ)

【Ⅲ】研究結果

1. 不安内容と対処方法

(1) 育児情報の不安内容(表1)

いままでに、友人や子育てグループからの育児情報で不安になったと回答している人は740人中109人(14.7%)であった。不安になった内容は複数回答で115件あった。これを整理すると、発達26(22.6%)、早期教育17(14.8%)、しつけ12(10.4%)、人間関係10(8.7%)、アレルギー8(7.0%)、予防接種6(5.2%)、トイレトレーニング5(4.3%)の順であった。

(2) 月齢別の不安内容(表2)

月齢別に不安の内容を整理すると、0～1歳は、発達、しつけ、夜泣き、授乳・母乳の順であった。

1～2歳は、しつけ、発達、断乳、教育、人間関係の順であった。

2～3歳は、教育、しつけ、トイレトレーニングの順であった。

3歳以上は人間関係、早期教育、アレルギー、発達、トイレトレーニングの順であった。

これらは、前年度の調査である(山岡)「育児でもっとも気になること15位」(図2)と比較すると、子育てグループは母親同志いろいろな子をみることで「他の子と比べて自分の子と違うから」「他の子の素晴らしい例がでていたりすると不安」に思ったり、母親同士も「他の母親が立派にやっている」ことをみると自分自身と比較して不安に思っていた。以上のことより特徴としては、子どもの発達が一番比較の対象になりやすく上位を占めるといった結果となった。

(3) 不安の解消方法(図3)

上位7位までの不安内容別に対処方法を整理すると以下のようなようになった。

発達：自分の家のやり方でした、真剣に聞かず参考程度にしてまどわされない・気にしない、友人に相談した・いろいろな意見を聞いたの順であった。

早期教育：自分の家のやり方でした、真剣に聞かず参考程度にしてまどわされない、本や雑誌を読んだり情報を集めたなどの順位だった。

しつけ：自分の家のやり方でした、友人に相談したの順位であった。

人間関係：自分の家のやり方でした、友人に相談したの順位であった。

アレルギー：医師に相談した・医療機関に相談した、本や雑誌を読んだ・情報を集めた。

予防接種：医師に相談した・医療機関に相談したが多かった。

トイレトレーニング：自分の家のやり方でした、真剣に聞かず参考程度にしてまどわされないの順位であった。

(4)解消法には月齢により違いがみられるか。
不安内容の上位7位までで「発達」のみ、母親の解消法に違いがみられた。

不安が「発達」であると回答したものは31件であった。そのうち1歳未満が13件、1歳以上が18件であった。

1歳未満では友人に相談するが最も多く、次いで保健所、本や雑誌、医師に相談であった。これに対し、1歳以上では、自分のやり方でしたが最も多く、次いで真剣に聞かず参考程度に聞いてまどわされない、友人に相談したの順位であった。(図4)

2. 代表的な具体的解消法

具体例

発達

① (9ヶ月)

いきなり3回食にしたり首が坐る前からB型ベビーカーにのせたりなど月齢より先へ先へ進めている人がいて、本人は少しも早いと思っていないので聞いてあせるといふより呆れた。

「他の友人と話してみた。」

② (10ヶ月児)

他の子どもと自分の子どもの遊びの違いや言葉の違いなど

「たびたび他の子ども達と遊ばせるようにしたら自然と活発になってきた」

③ (1歳2ヶ月)

他の子と成長について比べてしまう。

「子どもを信じる」

④ (3歳1ヶ月)

他の子に比べ遅れているのではとか、他の人がこうだから自分もこうすべきでないとか一時期振りまわされた。

「まず、自分の子は自分の子のペースがあるのでマイ・ペースにならなくてとは自分自身に言い聞かせた。そして友人との情報には振りまわされないようにしています。」

早期教育

① (1歳3ヶ月)

教育に関して。自分の方針を決めかねているが、早くはっきりさせねばならないようで少しあせる。(幼稚園、小・中・高・大に至るまで)

「のんびりしたお母さんと話す。情報量のバランスをとり特定の考えにかたよらないように心がけている。」

② (2歳6ヶ月)

早期教育の好きな人が多い。

「気にしない」

③ (3歳8ヶ月)

積極的に参加している人もいる。私は子どもは子どもらしくと、いっさいかかわっていないのですが時代の流れで参加するのが常識になるのではないか。

「そうはいつでも経済的にそれほど余裕はないのであきらめがついた。」

④ (3歳8ヶ月)

幼児教室の内容に子どもがついていけない。

「あまりにも嫌がるのでやめた」

② (4歳0ヶ月)

やはり習い事、たとえば水泳は絶対習わせなくてはダメとか。他にも英語、ピアノなど何かひとつくらいはと言われると不安になります。

「まだ解消はしていません。今、整理中です。」

しつけ

① (1歳1ヶ月)

おむつはずしなどのしつけが順調に進んでいて失敗したりしない人の話を聞いた時

「雑誌をよむ。人の子は人、自分の子は違うからと開きなおる。」

② (1歳4ヶ月)

いろいろな方がいるので自分の考え方を押しつけたり、たとえば1歳すぎてもおっぱいを飲んでいるのは甘えん坊になるなど。

「自分を信じた」

③ (1歳6ヶ月)

子どもにはきびしすぎるらしい。もう少しゆるめては・・・と友人にいわれ急に不安になった。

「主人、姑に相談した。そして自分で考え答えをだした。」

人間関係

① (4ヶ月)

姑の言っていることが信頼できない。

「保健婦さんに聞きました。」

② (1歳6ヶ月)

産休あけから子どもを保育園に預けて職場に復帰したため「小さいのに子どもがかわいそう」とさんざんいわれた。

「図書館から子どもを預けて働く母親の立場に立った本をいろいろ借りてきて読みあさった。」

③ (3歳1ヶ月)

自分の考えと違うと思っても人間関係を重視して自分の意見が言えない。

「他の知人に相談」

④ (3歳1ヶ月)

2人目の子どもをもつ母親の意見が重視される。迷信のようなけがの治療や古い子育て論には閉口した。

「かかりつけの医師に聞く。医師が信頼できる人なので助かっている。」

アレルギー

① (2歳0ヶ月)

アトピー性皮膚炎のステロイド多様についての副作用

「病院で薬をもらうときにステロイドの有無を確認しているが薬を使わないわけにいかないので不安に思いながら使っている。」

② (2歳7ヶ月)

食べ物次第でアトピーになるという話。

「アトピーの本、話、おりをみて聞いたりして自分のなかでバランスをとって消化している。漢方医の小児科をみつけ相談している。」

(3歳1ヶ月)

アトピーについて

「病院の先生に相談した」

予防接種

① (1歳0ヶ月)

時期について育児書や保健所の指導とは違い、かなり早くから接種している子どもが多く不安になった。

「医師に相談したら逆に人の子どもがどうだろうと気にするなど怒られとても嫌な思いをした。できるだけ多くのお母さんに情報を求めた」

② (1歳1ヶ月)

危険性について

「健診の時に医師に相談した。」

トイレトレーニング

① (2歳7ヶ月)

うまくいかない

「他人の意見に惑わされず自分なりに気長にやることにしました。」

② (3歳1ヶ月)

自分の子だけ排泄に遅れている。

「努力中ですが」

③ (3歳2ヶ月)

「1歳で成功した子がいて、やってみただけダメですぐやめた。」

【IV】考察

①母親たちは、ちょっとしたことが原因で不安になっていることがわかった。特に発達に関しては他の子と自分の子を比較して不安になることが多いが、月日がたつにつれてほとんどが自然に解決していた。

特に1歳までの子を持つ母親では、不安が発生すると身近な人にアドバイスを受けて解消し

ているが、1歳以上の子を持つ母親は、自分自身で解決しているという大きな違いもみられた。

これは、子どもが育つと共に母親も成長して、人に振り回されずに自分自身で考えていく能力が養われていくからではないかと考えられる。
②早期教育に関しては関心も高いが、「育児グループ」からの情報により加熱させられている様子が伺えた。

母親一人が孤立して育児をするのではなく、母親に対する家族のサポートが必要といえるだろう。

③人と自分の価値観が違っていると不安になるが、それもいろいろな友人と話をすることで解決している場合が多かった。

④ある特殊な情報が伝わると母親は驚き不安になるが、専門家の意見を聞き安心するために健康診査を上手に利用している人が多かった。しかし専門家から不用意に「馬鹿なことを考える」と否定されたという記述もあり、かえって不安が増長されている場合もあった。

小児保健にたずさわる専門家は、このようなことがないように母親の話をじっくり聞く姿勢が必要であろう。また、特殊な情報が流れた時は正しい判断をもって指導にあたらなければならないだろう。

表1. 子育てグループからの不安 N=115

1. 発達	26 (22.6%)
2. 早期教育	17 (14.8%)
3. しつけ	12 (10.4%)
4. 人間関係	10 (8.7%)
5. アレルギー	8 (7.0%)
6. 予防接種	6 (5.2%)
7. トイレ	5 (4.3%)

表2. 年齢別不安内容
0~1歳 N=34

順位		%
1.	発達	10(29)
2.	しつけ	6(18)
3.	夜泣き	3(9)
3.	授乳・母乳	3(9)

2~3歳 N=14

順位		%
1.	教育	4(29)
2.	しつけ	3(21)
2.	トイレ	3(21)

1~2歳 N=45

順位		%
1.	しつけ	7(16)
2.	発達	6(13)
3.	断乳	4(9)
3.	教育	4(9)
3.	人間関係	4(9)

3歳~ N=23

順位		%
1.	人間関係	4(17)
1.	早期教育	4(17)
3.	アレルギー	3(13)
3.	発達	3(13)
3.	トイレ	3(13)

図1. 現在、育児でもっとも気になること15位(内容別)

N=740

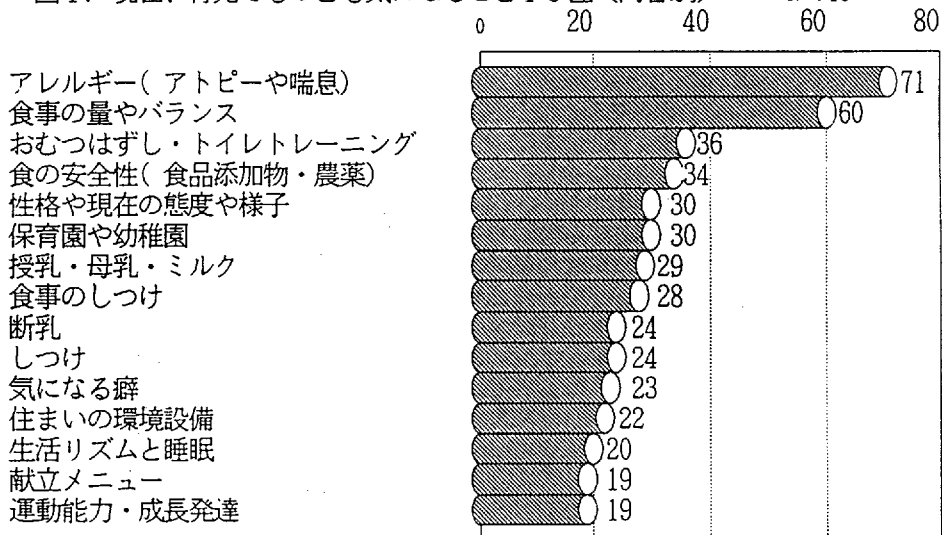


図2. 不安内容に対する解消法

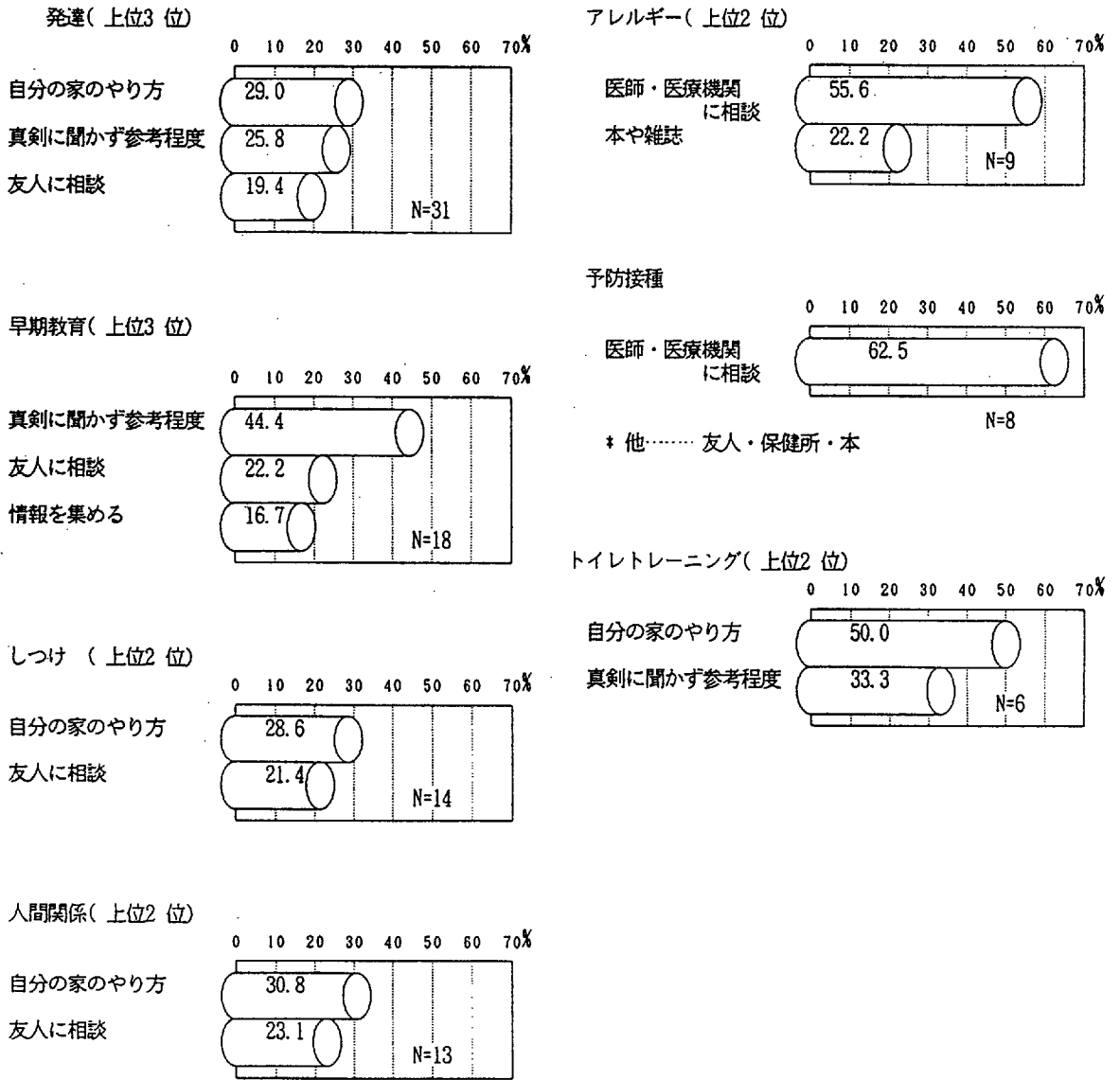
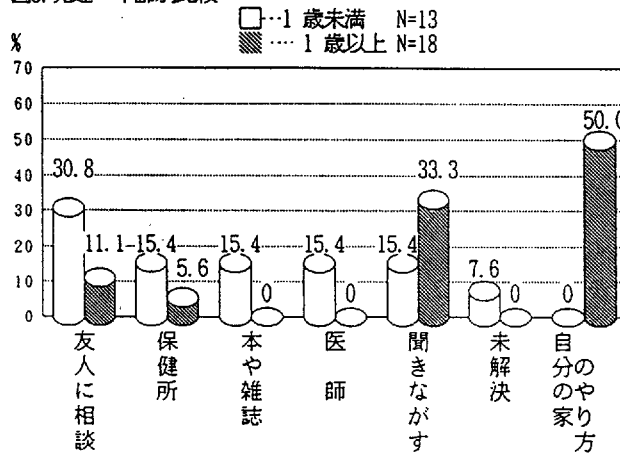
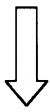


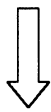
図3. 発達 年齢別比較





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】母親達が孤立して子どもを育てる育児環境の中で、「子育て仲間のグループ」は母親相互の援助機能を果たし、育児情報の発信・受信の場ともなっていると考えられる。しかしその一方で、「子育て仲間のグループ」からの育児情報で不安が起こる場合もある。今年度は昨年度の都内および埼玉・千葉・神奈川県と静岡県焼津市の母親を対象とした調査をより深めて分析し、「子育て仲間のグループ」から得た育児情報によりどのような不安が生じているのか、また母親はその不安をどのようにして解決しているのかについて検討した。その結果、母親は子どもの年齢の違いにより不安や悩みの内容が異なり、また不安に対しては内容に応じていくつかの不安解決の方法を使いわけながら対処していることが明らかになった。